

会長挨拶

産学官建設技術交流会会長

九州大学理事・副学長、九州大学名誉教授

落合 英俊



本日は暮れのお忙しい中、多くの方々に当交流会にご参加いただきありがとうございます。今回は九州大学の善先生に災害について講演いただきます。防災という言葉がよく使われていますが、本来は災いを減じるという意味の表現を防災と訳したことによります。しかしながら、ソフト対応を含めた減災という考え方が極めて大事ではないかと思われまます。また、今回は災害についていろいろな立場の方を交えた意見交換も企画していますが、医療や心理学など異分野の方々のご意見を伺うことも非常に大切です。それらを取りまとめ、社会的な共通資本の管理を進めていくことが必要です。建設業の分野では土木の方々がその役割を担う、ということではないかと思ひます。そういう役割を担うためには、産学官それぞれ主な業務はあると思ひますが、お互いが何を考えて仕事をしているのかということをごきちんとしておくことが大変重要なことになるのではないかと思ひます。そういう意味で、本日の産学官交流会は絶好のチャンスだと思ひますので、是非活かして頂きたいと強く希望しているところです。そのためには、昼間に畏まって話を聞くだけに留まらず、是非夕方の方にも出席いただいて少しくつろいだ場でもお互いの考え方等について意見を交換し、顔見知りになることも含めて色々な考え方をお互い理解し合う場になることを強く希望しております。是非この会が有意義な会になることを期待し、私の簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

《プログラム概要》 H23.12.15

- 挨拶：九州大学理事・副学長 落合英俊
- 講演：「東日本大震災の教訓……想定外を想定する」
九州大学大学院工学研究院教授 善 功企
- 会場を交えた意見交換：
「東日本大震災の教訓をどう活かし取り組むか……市民生活を支える社会資本の復旧と整備」
コーディネーター：九州大学大学院教授 塚原健一
九州大学大学院准教授 笠間清伸
九州地方整備局企画部長 塚原浩一
福岡市 西区役所地域整備部長 川田博見
(社)日本建設業連合会九州支部 池寄正勝
(社)宮崎県建設業協会高鍋地区会長 河野宏介
西日本新聞社報道センター 長谷川彰
日本赤十字社九州国際看護大学大学院生 時枝夏子



当日参加者数

150名

【交流会の開催状況】

【発行者】産学官建設技術交流会

- 官＝九州地方整備局企画部機械施工管理官
TEL：(092)471-6331 FAX：(092)476-3483
- 学＝九州大学大学院工学研究院
TEL：(092)802-3372 FAX：(092)802-3372
- 産＝(社)九州建設技術管理協会
TEL：(092)471-0189 FAX：(092)414-0767
E-mail:kouryukai@kyugikyo.or.jp

【事務局より】

当交流会事務局は産学官より事務局員を選出いただき協働の事務局として運営しております。九州での新技術の開発・活用・普及等へのご意見やご要望などがございましたら、お気軽に下記事務局までお寄せください。

事務局

「東日本大震災の教訓……想定外を想定する……」

九州大学大学院工学研究院教授 善 功企氏



善氏は、東日本大震災で「想定外」という言い訳的に使われた言葉に対してどのように立ち向かってゆくべきか、災害で立ち向かうべき自然の力とはどう考えるべきかについて、東日本大震災のみならず福岡市西方沖地震や新燃岳噴火、豪雨災害などについて主に地盤工学者の立場から話をされました。災害のとらえ方には誘因と素因があり、災害は一次から三次に至る構造を持っており、例えば地震による建造物の破壊を一次とすれば、発生した火災による被害を二次、それらによる社会経済的な被害を三次災害とするそうです。自然外力の予測には確定的予測と確率統計的予測があり、今後は後者の予測が進んでゆくのではないかとのことです。いずれにしても「絶対に崩れないものはなく、人間は神ではない」と悟ったはずとされています。リスクの考え方やハザードマップについても紹介され、事業継続計画（BCP）の現状や災害への対応を継続的に改善してゆくことの必要性を示されました。また、九州内の国立大学で「防災環境ネットワーク部会」を作り、各大学で災害に関する研究者リストを作成することによりいざというときにすぐに連携がとれる形をとられているそうです。最後に、防災に有効な情報として地盤工学会九州支部で作成した九州地盤共有データベースを紹介されましたが、大事なものは自主防災組織、消防団、水防団、ボランティアなどの地域住民活動であり、「日常防災」すなわち日常生活を防災につなげて考えてほしいとのことでした。

意見交換

～東日本大震災の教訓をどう活かし取り組むか……市民生活を支える社会資本の復旧と整備……についての意見交換～

今回は、九州大学大学院教授の塚原健一氏をコーディネータとして、以下の主旨に添って意見交換を行いました。

「産学官建設技術交流会は、産学官だけだとインフラを作って供給する人間の立場の話になりがちだが、今回は市民生活を支える社会資本ということで、ユーザーの立場から災害時にインフラをどう使っていきたいのかということ話をもらい、土木、建築などインフラ関係の人間のサプライヤーとしてそれにどう応えていくか、という形で話を展開する。」

意見交換では、長谷川氏、時枝氏にマスコミ、災害ボランティアとしての看護師の視点から災害とインフラについて体験に基づくご意見をいただきました。また、河野氏は宮崎県内で発生した口蹄疫での地元建設業の貢献の実情を話され、それに対するマスコミの取り上げ方の不備などを指摘されました。池寄氏は日本建設業連合会としての東日本大震災における具体的な支援活動を取り上げ、実働可能な体制づくりの必要性を示唆されました。福岡市の川田氏は、震災による下水施設の被害を通して応急処置に対する支援隊の活動や今後の本格的な復旧作業について話されました。九地整の塚原氏は、震災当時からの本省の取り組みや中央防災会議の中間報告概要等を紹介されました。九州大学の笠間氏は現地にも行かれており、大学や学会としての対応について意見を述べられています。これらの発言を基に、会場を交えた活発な意見交換が行われました。会場からは、看護大学の喜多学長が災害への対応では医療分野が活躍するには建設分野との協力が欠かせないことを体験を基に発言されました。最後に、塚原教授が日本学術会議の中で自然災害軽減のための国際協力に関する委員会での医療や心理学の専門家が参加していることを紹介され、今回のような幅広い分野にわたって交流を持つ機会を今後とも開催してほしいと要望されました。



【コーディネーターの塚原氏】



【登壇者の方々】



【災害ボランティアの経験を報告する時枝氏】